

今日のトピック 米国株式市場の見通し（2018年1月） 最高値更新が続くニューヨーク（NY）株式市場

ポイント1 最高値更新が続く

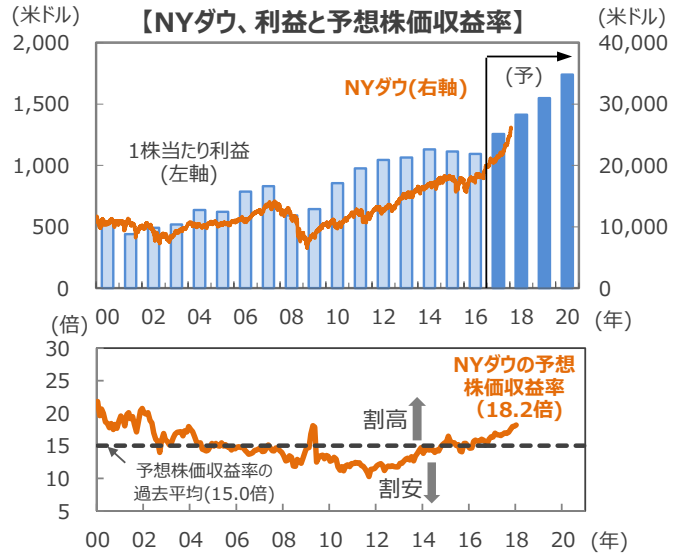
- 米国株式市場は最高値更新が続いています。17日にはS&P500種株価指数が2,800ポイント台、NYダウが26,000ドル台と、それぞれ大台に乗せました。高値警戒感や政府閉鎖の可能性がやや重石となりつつも、2017年10-12月決算に対する期待や法人税減税による業績の上振れ期待を背景に高値追いの展開となっています。19日に続き22日もS&P500種株価指数、NYダウ、NASDAQ総合指数が揃って高値を更新しています。

ポイント2 法人税減税の効果に注目

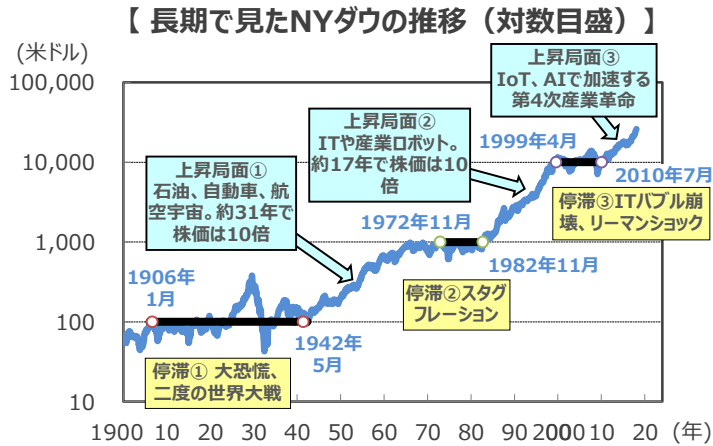
- 株価が上昇傾向を強める中、NYダウの予想株価収益率は22日に18.2倍となりました。2000年から2017年までの平均（15.0倍）より上振れており、今後の企業業績の伸びが重要となりそうです。
- 2018年の業績予想は法人税減税の効果が織り込まれてきており、1月19日現在で前年比+12.6%の見通しです。2019年は同+9.6%、2020年は同+12.3%で、今後3年間、平均で2桁の増益が続くと予想されます。

今後の展開 上昇局面が続く可能性

- 米国経済は緩やかな景気拡大が続いており、企業業績も好調に推移する見通しです。こうした環境の中、過去に米国株式市場の長期上昇を支えた「産業構造の変革」に注目が集まっています。今後は、モノのインターネット（IoT）、人工知能（AI）の活用が「産業構造の変革」を促進する見通しで、米国株式市場の成長持続が期待されます。



(注) データの期間：1株当たり利益(NYダウベースの1株当たり純利益)は2000年～2020年。2017年以降の利益はBloomberg L.P.の予想。NYダウは2000年1月3日～2018年1月22日。NYダウの予想株価収益率は2000年1月～2018年1月。月末値。2018年1月は22日。(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは1900年1月～2018年1月。月末値。2018年1月は22日。グラフ上の年月は終値ベースで、各大台にはじめて到達した年月と、それぞれの台を下回らなくなった最初の年月を表示しています。両時点の間を「停滞」としました。対数目盛は、騰落率が等しい目盛間隔になるように調整されたものです。長期の株価を見る場合などに用いられます。(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2018年 1月12日 米国『税制改革法』の内容と経済効果は? 2017年12月21日 2018年の米国経済の見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。